

# 朝日新聞

明治二十一年一月二十五日 土曜日 第一號

## 官令

○乙第五號 府 縣  
 郡區長郡書記への官吏より轉任又は郡區長郡書記より他の官吏へ轉任の節月俸は明治七年五月第六十一號公達月俸規則第四條に照準其月十七日在職の方に於て支給し滿年賜金は其際打切支給致すべし此旨相達し候事但し適宜注已に施行すべし雖ども本文に背馳の向は引直し候儀と相心得べき事  
 明治二十一年一月十八日 大藏卿大隈重信

○乙第六號 府 縣  
 明治五年第三百一號公布に因り石代改正増加高關金凡二割を目途とし下渡候分其他關業并凶荒豫備等資本の爲府縣廳限り致委託下渡候分實地使用の景況并費目精算書相照毎年六月限り可届出候且又右類似の金筋にて從來舊藩より引繼居候分は六年大藏省第四百九十九號を以相達候旨も有之此節送開申不相成向は無之空に候得共方一調渡の分も有之候は此際至急取調可申出候此旨相達候事 但本文委託金無之向は其旨可届出候事 内務卿伊藤博文代理  
 明治二十一年一月廿一日 大藏卿大隈重信

○乙第七號 府 縣  
 今般國稅金徴收の順序相定候に付ては各郡區長へ租稅局長より直に相達候儀も可有之候條兼て郡區長へ相達置可申候此旨相達候事  
 明治二十一年一月廿一日 大藏卿大隈重信

## 大阪府官令

○大第十一號  
 從來醫師出張診療所設置の儀情願に依り開届繼札下付致し來候處自今は願書に出張所取扱の順序及出張診療の時間等を詳記し可届出時として

## 雜報

○去る十八日の御歌始めは皇族皇族がたも出られて舊御學問所にてお開きに成りて歌は  
 御製  
 あら玉の年もかはりぬけふよりは  
 民のこゝろやいとひらけん  
 皇后宮  
 日のみはたかくかかげて國民の  
 あまぐやとしのひかり成らん  
 ○地方税課出方法に就ては知事書記官は素より府廳に於ても御多忙の由なるが甲乙の差なき様余程御注意厚きよし

○江戸堤南通三丁目の當府勤工場は近々新築落成の由なるが最早該場へ物産寄集の事務は來月中旬より取掛らるゝよし

○當府廳構内の南手に馬車賣馬の爲に馬場を新築あると聞けり

○府下に水上警察と稱し四大川を巡廻する（パツナイラ）舟は是迄一艇にてありしが今度四艇を増加し五艇にて水上を巡廻せらるゝ事になり付今般大工職の者へ入札を申渡されたり

○府下長堀川の鯉座橋は大破に附近日懸替の着手になる

○府下第六大區一小區七番學校は新築落成になり昨廿四日開校式に附知事渡邊公は第五課々長

○日初一等屬と共に其日午前八時赴かるゝ由  
 ○今般中の芝居で面白ひ評判記が續連より發兌  
 ○府下上本町通りに一昨年西兩戦争の際建築なりし陸軍臨時病院は方今建築拾にてありしに此程一年に付代價七十餘萬にて御撤下になり該地所へ盛大なる兵營六棟新築なるとの事

○來る二月二日は石町三橋樓に於て大衆吟會を開かれす幹事は水原梅屋生駒山田山田山田島慶洲の四君にて詩題は紀元節口説春曉と文題は送人之琉球序であります諸君御來臨あれ會費は二拾圓と承たまはれり

○東京府華族鳴津久公は病患の爲の豫て鹿兒島縣へ赴き居られしが此節は病患全快なるに御歸京の期り來る廿八日には當地へ御着ると其節へ本日電報ありしと聞しは昨日

○大和國奈良東大寺の博物館は例の通り來る三月中旬より開場になり本年は該地正藏院の寶藏を開かれ珍器出品なるに附當今御調へ中なりと

○兵庫縣下兵庫郡洲本津村の千足利右衛門氏は此度支那人より六百トン積の濱船を代價七万五千圓にて買入れ帆船に改造し來る二月上旬に船おろしの由其節船夫へ渡す手賃五千圓を當地へ馳らへに來たりしは昨日の事と聞けり

○東高津村の梅屋福は追々梅の蕾を綻ばすとして茶店酒肆はそろゝ小屋掛にかゝり來る二月中旬には全たく開き觀船四邊を翫はすに至らんと聞雅人の話しなるが直に梅は百花の魁であり姪好軍家打集ひ來る二月上旬の頃難波新地茶屋に數多の黃鳥を持寄り妙音を奏かはすに聞けり

○高麗糖第一丁目關口千賀方にて美濃産の水品を種々の器に製し販賣せり誠に奇麗で有外

# 第九課

# 新聞の読み方

# 単語

供給 → サプライ

日刊 → 夕刊、週刊、月刊

さぞ：直接見聞していない他人の心中・状態についてこうに違いないと思いやる意を表す。さだめし。「—びっくりしたことだろう」

ちょうど（丁度、調度）

類（たぐい・るい）

無用 → 有用

迅速 → 速やか

差し置く：①他のことのために、今していることをそのままにして放っておく。「この問題は—

いて、次に進もう」②（関係のある人などを）無視して事を行う。「課長を—いて部長と直接相談する」

# 単語

→ 放る：① 遠くへ投げる。無造作に投げる。「ボールをー・る」② 途中でやめる。なげだす。

「英語の勉強をはじめたが途中でー・ってしまった」③ 手をつけないで成り行きにまかせる。うち捨ててかえりみない。「当分ー・っておいて様子を見よう」

→ さておく：そのままにしておく。さしあたり話題から外しておく。多く「さておき」「さておいて」の形で用いる。「冗談はー・いて、本題にはいるう」

探究心、好奇心

心持ち → 心境

だんだんと → 徐々に（徐行）、どんどん

たまたま → たまに

欠陥 → 弱み、欠点、短所 →

# 単語

即時 → 即座

抱える → ① 物を腕で囲むようにして胸にだいたり，脇の下にはさんだりして持つ。「大きな箱を両手で一・えている」② 人を雇って家族や会社の一員とする。「大勢の店員を一・えている大店」③ 自分の負担となるような人を家族の一員としてもつ。「両親と五人の子供を一・えて，生活に追われる」④ 処理・解決しなければならないことをもつ。「巨額の借金を一・えて経営が行きづまる」「難問を一・えている」

→ 抱く（だく）：両腕を回して物を中にかかえこむ。「赤ん坊を一・く」

→ 抱く（いだく）：① 「だく」の文語的な言い方。② ある考え・気持ちを心の中にもつ。「理想を一・く」「不安を一・く」

# 単語

大晦日 → 新年、元日、元旦

抱える → ① 物を腕で囲むようにして胸にだいたり，脇の下にはさんだりして持つ。「大きな箱を両手で—・えている」② 人を雇って家族や会社の一員とする。「大勢の店員を—・えている大店」③ 自分の負担となるような人を家族の一員としてもつ。「両親と五人の子供を—・えて，生活に追われる」④ 処理・解決しなければならないことをもつ。「巨額の借金を—・えて経営が行きづまる」「難問を—・えている」

→ 抱く（だく）：両腕を回して物の中にかかえこむ。「赤ん坊を—・く」

→ 抱く（いだく）：① 「だく」の文語的な言い方。② ある考え・気持ちを心の中にもつ。「理想を—・く」「不安を—・く」

# 文型

## 1. ～がる

形容詞，形容動詞および助動詞「たい」の語幹に付いて，そのように思う，そのように感じるの意を表す。

例：「うれしー・る」「かわいー・る」「あわれー・る」「見たー・る」

なお、形容詞，形容動詞の語幹および一部の名詞に付いて，そのように振る舞う，そのようなふりをするの意を表す。

例：「強ー・る」「痛ー・る」「得意ー・る」「興（きょう）ー・る」

# 精読

- 1.世の中の人間が感ずるいろいろの不幸や不安の原因はどこにあると作者は言っているのか。
- 2.あなたは、新聞を通して情報やニュースを手に入れるのか、それとも、インターネットを通して入手するのか。
- 3.本文の内容を簡潔にまとめてみてください。